



2025年12月発行

紫緑会だより

京都大学医療技術短期大学部同窓会
京都大学医学部人間健康科学科同窓会



会長あいさつ

紫緑会会長

梶原 香里

今年度より第19代会長を拝命いたしました。私は、1985年作業療法学科の卒業生です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本会は近年、財政難に陥っていましたが、昨年度より本学のご協力を得て入会者が増え始めました。さらに今年度より、支部予算を組まずに支出を抑える方針を取っています。これらにより財政改善のきざしが見えてきました。

一方、今年度は諸事情により、検査支部の役員が欠員のままスタートすることになりました。年度初めの役員会は紫緑会全体と支部の在り方についての考えや解釈が議論されました。青山朋樹学科長はじめ、学内の先生方にご相談させていただき感謝しております。本学の変化とも関連するこの課題は、時間をかけて考えるべきことだと思っています。

不安定な状況ではありますが、「同窓会が在ること」が在学生、卒業生、各々にとって、何らかの価値、あるいは意味を感じられるような会であることを目指し、具体的な形を模索しながらしっかり継続していきたいと考えています。

会員の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後にひとつご報告があります。7月12日に医学研究科・医学部創立125周年記念式典及び祝賀会に招待いただき、紫緑会として看護支部の龍野和恵さんと私が参加しました。看護婦見習講習科の設置からも同じく125周年であり、式典において宮島朝子先生が来賓として祝辞を述べられたことは、本会にとっても大変意義深いと感じました。



顧問あいさつ

紫緑会顧問

青山 朋樹

京都大学医学部人間健康科学科 学科長

紫緑会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

人間健康科学科では2025年度の入試より2年次高専編入学を開始しました。これは全国に51箇所設置されております高等専門学校を卒業した生徒さん達を編入生として迎え入れるというものです。高専の生徒さんは、中学卒業後に5年制の高等教育を受け、実験や実習といった実践的な専門教育過程を修了しております。2年次高専編入学は総合医療科学コースに3名の定員で配置されており、先端看護科学コース、先端リハビリテーション科学コースに配置されている2年次学士入学と同様に、少し違う教育バックグラウンドを持っております。人間健康科学科に必ずや新しい風を吹き込んでくれると期待しております。

ところで、私は立場上、多くの病院長や看護部長、技師長と話す機会も多いのですが、皆さんが共通しておっしゃられることは「看護師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師の卒業生をもっと送って欲しい」です。やはり人間健康科学科の卒業生は優秀で、ただ業務をこなすだけではなく、ロジカルに考え、新しい試みやシステム構築に長けており、リーダーとなる存在として期待できるとのことです。これもこれまでの卒業生の皆様に長年にわたり蓄積して頂いた実績と信用の賜物と感謝しております。「そんなに高く評価してくれるのであれば、給与面にも反映してくれませんか」と言っておりますが、今のところ色よい返事は頂いておりません。どこの業界も少子高齢化により人手不足が深刻で、優秀な人材にはさまざまなインセンティブを設けて、引き抜きや引き留めを行っております。医療業界においてもそのような流れができるよう努めてまいります。卒業生の皆さんも御協力をお願いします。

卒業生の近況報告

子供たちの独立と、51 歳からの新たな学び

理学療法学科 平成 8 年卒 北口 拓也

京大を卒業してから、はや 30 年。大阪労災病院で理学療法士として勤務し、スポーツ整形外科のリハビリ、特に前十字靭帯（ACL）再建術後のスポーツ復帰支援に長年携わってきました。

この春、我が家の末っ子が大学を卒業し、社会人として新たな一歩を踏み出しました。3 人の子どもたち全員が巣立ち、それぞれが自立していく姿を誇らしく見守っています。そんな人生の節目に、私自身もまた新たな挑戦として、20 年以上温めていた大学院進学を実現しました（少々温めすぎてしまいましたが）。これまで臨床の現場で積み重ねてきた経験と、長年の研究テーマである ACL 再損傷予防のリハビリテーションを、大学院での学びを通じて、更に深く掘り下げていきたいと考えています。仕事と学びの両立は決して容易ではありませんが、「いつか海外の学会で講演をする」という夢を胸に、日々前向きに取り組んでいます。

今年 5 月には、東京で開催された World Physiotherapy Congress 2025 にて、Outstanding Award (IFSPT：国際スポーツ理学療法連盟) をいただく機会にも恵まれました。自分の研究に対する評価をいただけたことは、今後の臨床、研究活動にも大きな励みとなっています。



プライベートでも嬉しい出来事があり、長男に第一子が誕生しました。遠方にいるため中々会う機会はありませんが、1 歳を迎えたばかりの孫の笑顔に、家族みんなが癒されています。新たな家族のつながりに、日々喜びと感謝を感じています。

そして、子どもたちは巣立ったとはいえ、我が家には“永遠の末っ子”が元気に暮らしています。愛犬のシーザー「ココ」(8 歳) です。旅行でも近所の買い物でも、どこへ行くにも一緒。私にとっては癒しの存在であり、日々の暮らしに欠かせない大切なパートナーです（もちろん同級生の妻もですが）。

これからも臨床、研究、そして家族との時間を大切にしながら、自分らしく一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。



学校教育の場を作業療法の入り口に

作業療法講座卒業 亀岡市立亀岡小学校勤務 小林 愛佳

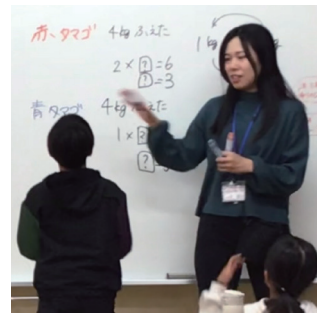
作業療法学講座を卒業し、作業療法士免許を取得した私は、小学校の特別支援学級の担任として日々児童と格闘しています。

京都大学に入学する以前に、特別支援教育について学び、小学校や特別支援学校の教員免許を取得しました。特別支援学校での教育実習のなかで、児童との関わり方を調べるうち、「どうやら作業療法という世界が、特別支援教育でも役に立つらしい」と知りました。作業療法士は、その人の生活の中で、その人にとって価値のある作業や「したいこと」ができるように支援していくということも学びました。

子どもにとっての価値ある作業や「したいこと」とは何だろうと考えたとき、学習や遊びのなかで「したい」が生まれ、その思いが実現されることが、新たな「したい」につながっていきます。さらに、発達期は本人の価値意識に限らず、子どもを支える保護者や教員の「こうなってほしい」という期待や「こうする必要がある」という思いも含めて大切にしていかなければいけません。

こうして作業療法の根幹に立ち返ると、学齢期と作業療法はかなり近いところにあるのではないのでしょうか。一方で、医療につながっていないけれど、作業療法によるアプローチで希望が叶えられる子どもや、保護者、教員などの支援者がいると考えています。

そこで、学校教育現場が作業療法への入り口のひとつになれば、実は作業療法を必要としているという人にも広く届きやすくなると思います。まずは私自身が作業療法士の知識や技術をもって地域の学校で先生として関わっていくことで、そんな未来へ貢献していけたらという思いをもちながら、今日も子どもと向き合っています。



在学生からのお便り

未熟さを原動力に：学び続ける大学院生活

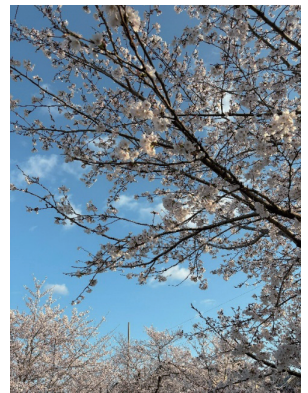
高度実践研究者養成プログラム専門看護師課程 慢性疾患看護学 大窪 真由

私は2025年4月より大学院の学生となりました。それまでは大学病院の病棟看護師として働いておりました。看護師として学びを重ねていくと看護の楽しさを実感できるようになり、さらに学びたいという思いから、ご縁があり京都大学に進学いたしました。京都はもちろん、関西に住んだことがなかったため、あらゆる場で新しいことを発見する毎日です。

大学院での生活は、これまでの病棟看護師としての経験とは全く異なるものでした。大学院では、多様な専門分野を持つ同期や、長年にわたり卓越した実績をお持ちの先生方や先輩方と意見を交わす機会が多くあります。その中で、私は自分の知識や視野の狭さ、スキルの不十分さを痛感しました。例えば、研究を計画する際のデザインや、理論的な背景の解釈ひとつをとっても、自分の理解が浅いことを実感し、学び続けることの大切さに改めて気付かされています。

しかし、この未熟さは決してネガティブなものとしてだけ捉えているわけではありません。それはむしろ、私の学びの原動力であるとも言えます。講義やディスカッションを通じて、新しい知識を少しずつ吸収し、それを自らの研究や実践に活かせるよう努力を重ねています。また、指導をいただいている先生方の熱意と豊富なご経験に支えられながら、さらに的確なアドバイスをくださる先輩方のおかげで、困難な場面でも一歩ずつ前に進むことができています。

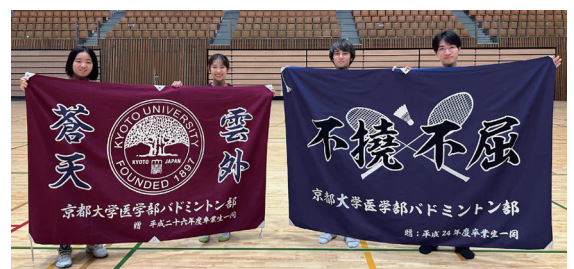
最後に、日々専門性と熱意をもって私たちを導いてくださる先生方に深く感謝申し上げます。また、温かく迎え入れてくださった先輩方にも心よりお礼を申し上げます。このかけがえない経験を糧に、さらに努力を重ね、学びを深めていきたいと思えます。そして、将来にわたって自分の歩む道を切り拓いていけるよう、一層の精進を重ねてまいります。



大学生活を振り返って

総合医療科学コース 3回生 河那辺 夏生

私の大学生活で何が印象に残っているかと聞かれると、1番に部活動が挙げられます。私は医学部バドミントン部に所属しており、とても充実した生活を送っています。部活動に所属して、スポーツによって得られる達成感や結果はもちろんですが、多くの人に恵まれたことが入って良かったと思える1番の点です。部活動を頑張るなかで、思うように実力が伸びなくて悩むときや人間関係に悩むこともありました。しかし、相談にのってくれる同期や先輩方がいて、支えられて続けることができました。臨床検査プログラム内の実習が忙しい時は、同期がフォローしてくれました。またコース選択や研究室配属、卒業後の進路など進路に悩み、同じ人間健康科学科の先輩、総合医療コースの先輩方に相談したときも、熱心に向き合ってくださり、大きな力となりました。その経験があったからこそ、今の私があると感じます。これからは、先輩方にしてもらったように、私も後輩たちがより良い大学生活を送れるように支え、人とのつながりを繋いでいきたいと思えます。そして、これからはいよいよ研究室での活動や病院での実習が始まります。研究室では、これまで授業で学んできた知識を応用し、自分の力で学び、結果を積み上げていく経験が求められます。失敗や壁に直面することもあるかと思いますが、その一つひとつを糧にして、自分の専門性を高めていきたいです。また病院での実習では、授業や実習を通して臨床検査技師の仕事としてこれまで学んできたことを実際の現場で活かす場面が増えてきます。理解はできていても、現場で向き合う難しさや責任の重さを強く実感すると思えます。その分、学びの深さややりがいを感じられる貴重な時間になると思えます。残りの大学生活では、今まで以上に、人との繋がりを大切にしながら、より一層、自身の学びを深め、自分の目標に向かって努力を積み重ねていきたいと思えます。



将来のこと

京都大学医学部人間健康科学科 先端作業療法学講座 4 回生 井ノ阪 賢一

私は大学に入学して半年が経ったころ、「自分は将来どのように生きていくのだろうか」という形のないものを頭の中に抱えていました。その形は1日単位でも変化していて、ある講義を受ければ「将来は〇〇を勉強したい」、別の講義を受けて「仕事は××がいい」、次の日の朝には「△△になりたい」と忙しい毎日を過ごしていました。

ある日、影響されやすい私は講義で作業療法の存在を知り、いつものように感銘を受けました。次の日、作業療法についてもう少し知りたいと思い図書室で本を借りました。何日か経ち、その作業療法の講義のレポートを書くうちに自分の考えがまとまりました。翌月、作業療法学講座の研究室見学に応募してみました。そこから数か月間、私が履修する講義は作業療法学の内容を取り扱っておらず、私が自ら進んで作業療法について調べることはありませんでしたが、作業療法の存在を知ったあの講義で受けた感銘は頭の中にまだ残っていました。私からするとそれはとても不思議な感覚で、何か運命的なものだと思い、必然的に作業療法学コースを選択しました。

私が作業療法の何に惹かれたのかは正直なところ説明できませんし、多分これからも変わっていくのだと思います。どのような作業療法士になりたいかということも、恐らく今後二転三転していくので敢えて決めないようにしています。ただ、稀に私の頭に残り続けるものがあるので、それを大切にしていこうと思っています。私が将来どんな作業療法士になっているかが今はとても楽しみです。



苦しみもがいた経験を今後

先端理学療法学講座修士1回生 神谷 駿斗

今春、理学療法学講座を卒業し、同大学院臨床バイオメカニクス研究室に進学しました。大学入学時から研究に興味があった私にとって、研究室は温かい先生方や先輩方に囲まれて日々学びを深められるとても充実した環境です。

学生生活の傍ら、幼少期から続けていたバレエの集大成として、日本で最も権威のある「こうべ全国洋舞コンクール」に挑戦しました。2年前の学部3回生の時は、入賞できず、ずっと悔しさが残っていました。今回は1年かけて栄養管理や呼吸法まで気を配り、身体を最高の状態に作り上げて挑みました。本番はとても緊張しましたが、やってきたことを信じることで、満足のいく演技ができ、日本一に輝きました。これまでの人生でこの上ない達成感を味わいました。支えてくれた家族や先生方に形として恩返しができ、うれしく思います。身長が低くダンサーとして身体条件に恵まれていませんが、日々の継続や細部へのこだわりを追求することで、大きな壁を乗り越えられることを経験できました。これからも周囲の方々への感謝を忘れず、この苦しみもがいた経験を研究や生活に活かしていきます。



京都大学同窓会紫緑会への

ご寄付のお願い

現在、紫緑会は主に入会者減少による財政難のため、活動を抑えて運営しています。今年度は、これまで支部で行われていたセミナーや交流会への支出は休止しています。

本学にご協力いただき、入会者については増加傾向にあり、見通しが立ってきました。現在は、財政を立て直しながら、本学との連携を深めて現状に合った在校生に役立つ内容を考え、卒業生の研鑽・交流の場を持てるように、検討しているところです。

これまで同様、財源確保のため、同窓生の皆様や本学の先生方からのご厚意はたいへん貴重なものであり、本会の趣旨にご賛同いただけましたら幸いです。

今後とも紫緑会の発展のために皆様の温かいご支援を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

ご寄付にご協力いただける方は下記の口座までご送金ください。

紫緑会会長 梶原香里

1口2,000円で、口数は任意です。

振込先：ゆうちょ銀行

記号：14460-2

番号：5172521 名義：紫緑会

*全銀システムによる他金融機関からの振込サービスをご利用の場合は、

店名：四四八（読み：ヨンヨンハチ）店番：448

預金種目：普通預金 口座番号：0517252

名義：紫緑会

紫緑会役員名簿

会 長 梶原 香里（作業療法学科 1985 年卒）

副 会 長 島 浩人（理学療法学科 1987 年卒）

事務局長 山内 洋子（特別会員）

常任委員 幸野 里寿（看護学科 1988 年卒）

常任委員 藤善 将（作業療法学科 1991 年卒）

常任委員 池添 冬芽（理学療法学科 1992 年卒）

委 員 奥藤美智子（看護学科 1978 年卒）

〃 門 恵子（看護学科 1993 年卒）

〃 北久保和加子（看護学科 1983 年卒）

〃 龍野 和恵（看護学科 1978 年卒）

〃 中井 葉子（専攻科 1993 年卒）

〃 日高美登里（専攻科 1988 年卒）

〃 伊藤 明良（理学療法学科 2010 年卒）

〃 建内 宏重（理学療法学科 1998 年卒）

〃 宮坂 淳介（理学療法学科 2005 年卒）

〃 草野 佑介（作業療法学科 2008 年卒）

〃 森脇みなえ（作業療法学科 1995 年卒）

会計監査 池添 冬芽（理学療法学科 1992 年卒）

会計監査 伊藤 明良（理学療法学科 2010 年卒）

顧 問 青山 朋樹（特別会員）

作業療法支部より

2024 年度は、紙面で最後となるゆりの木通信第 33 号を発送しました。詳細は HP 各支部より作業療法支部に掲載のゆりの木通信第 34 号をご覧ください。

紫 緑 会 活 動 報 告

2024 年度 会計報告 (2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日)

〔収入〕	
会費 (19 名分)	570,000
寄付	29,000
利息	294
合 計	599,294
〔支出〕	
事務費	554,720
会議費	23,000
通信費	430
印刷費	44,550
ホームページ管理費用	17,600
合 計	640,300
支部助成金 (内訳)	
看護	(0)
検査技術科	(50,000)
理学療法	(30,370)
作業療法	(60,830)
専攻科	(0)
	141,200
支出合計	781,500
前年度繰越金	11,688,982
次年度繰越金	11,506,776

2025 年度 予 算 案 (2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日)

〔収入〕	
会費* ¹ (1 口 30,000 円)	450,000
寄付	200,000
利息	2,000
合 計	652,000
〔支出〕	
事務費* ²	570,000
会議費* ³	25,000
通信費* ⁴	20,000
印刷費* ⁴	100,000
ホームページ管理費用	18,000
125 周年記念式典	15,000
合 計	748,000

支部助成金：今年度はなし。

*¹ 新入会員 人間健康科学科 15 名 (予定数)

*² 事務局員人件費、文房具、コピー費

*³ 役員会・常任委員会日当、交通費

*⁴ 紫緑会だよりデータ作成費・勧誘文書印刷費

編集後記

最近、鏡を見るたびに「なんか老けたなあ」と思うことが増えました。そう、「還暦」を迎えてしまったのです。学生時代、「60 歳!? すごい大人! お年寄り」なんて思っていたのに、まさか自分がその年齢になるとは…人生は本当に早いものですね。

今回の同窓会会報を作成するにあたりでは、各世代の皆さまから寄せられた近況や思い出を通して、懐かしさとともに、「これからも頑張ろう」という気持ちを新たにしました。

医療現場に入ってから 40 年ほどになりますが、医療の技術の進歩、価値観の変化、そして人とのつながりのあり方も様変わりしました。しかし、どんな時代であっても、患者さんに寄り添う心、共に学び合う仲間
の存在は変わらぬ支えであったと思います。

還暦を迎えても、まだまだ人生はこれから。健康第一で、笑顔を忘れず、趣味など楽しみを持って過ごしていきたいと思います。そして、またどこかで“あの頃の仲間”と再会できる日を楽しみにしています。

紫緑会副会長 島 浩人 (理学療法学科 医短 3 期卒業生)

紫緑会事務局

《住所等会員情報の変更がございましたら、事務局へメールか郵便にてご一報下さい。

その際に、封筒の宛名に記載されている会員番号を必ずお知らせください。》

〒 606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53 京都大学医学部人間健康科学科内

E-mail : shiryokukai@gmail.com ホームページ : <http://shiryokukai.org/>